

報告事項テ

青谷横木遺跡の街路樹について

青谷横木遺跡の街路樹について、別紙のとおり報告します。

平成29年3月18日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

青谷横木遺跡の街路樹について

平成29年3月18日

文化財課

平成25年度から27年度にかけて一般国道9号（鳥取西道路）の改築に伴い発掘調査を行った、青谷横木遺跡の整理を行っている中で、古代山陰道に街路樹として柳の木が植えられていたことが判明した。文献や和歌などに書かれている例はあるが、実際の発掘調査で見つかったのは、国内初。既に報道された『女子群像』が描かれた板絵などとあわせて、古代史を解明する上で極めて重要な遺跡であることが再確認された。

1 街路樹に関する調査成果

- (1) 古代山陰道に沿って築かれた盛土上で確認された樹木根 18 本の内、8 本の樹種を調べたところ、全て柳であることが判明した。樹木根は列状に 100m ほどの長さで並んでいたと推定される。樹木根の年代測定や盛土内出土木簡から、平安時代（10 世紀後半）に植えられていたと考えられる。
- (2) 古代の街路樹が発掘調査において発見されたのは国内初である。
- (3) 文献や和歌では都大路などに街路樹が植えられていたことが知られているが、それを考古学的に裏付ける重要な成果である。

2 街路樹に関する記述例

- ・ 大伴家持が越中国の国司在任中に読んだ歌（750 年）。

「春の日に はれる柳を 取り持ちて 見れば都の 大路し思ほゆ」『万葉集』

- ・ 普照（東大寺の高僧）が 759 年に旅人の飢えを癒やすため京外の街道に果樹を植えることを奏上。『類従三代格』

3 発見された樹木根の写真



青谷横木遺跡 P10 区で確認された道路遺構と樹木根

4 作製した古代山陰道の復元イラスト

